

「相模原シティプライド」 ～ どう考える？相模総合補給廠から相模原の未来を～

「公民連携イノベーション 相模原チャレンジ」の開催について

官民学混成のグループを作り、新たな視点・価値で、公民連携で実施可能なプランを検討する「公民連携イノベーション 相模原チャレンジ」を開催いたします。

相模総合補給廠一部返還地を「相模原シティプライド」と仮称し、相模原シティプライドをどんな魅力クラスター（魅力を集積させることで新たなプレイヤーや市民の流入を促す意味の造語：別紙参照）の中心地にするかを考え、政策形成とビジネスアイデアを合わせて共創します。

なお、この「相模原チャレンジ」は、東京家政学院大学、横浜銀行との共催で実施するものです。



1 日時

8月20日（火）	9：00～12：00	オリエンテーション
9月2日（月）	9：00～17：00	第1回（プラン検討）
3日（火）	9：00～17：00	第2回（プラン検討）
10月16日（水）	9：00～17：00	第3回（受講者プレゼンテーション）
18日（金）	9：00～17：00	第4回（受講者プレゼンテーション）

2 場所

けやき会館2階 職員研修所大研修室（相模原市中央区富士見 6-6-23）

3 概要

各受講者が希望する魅力クラスターごとに、官民学混成の概ね7人のチームを6班分作り、相模原シティプライドをどんな魅力クラスターにするかを検討します。

【進め方のイメージ】 内容は若干変わる場合があります

日程	プログラム	講師
8/20 (火)	オリエンテーション ・ 基調講演 ・ チームビルディング	(株)フューチャーセッションズ 代表取締役社長 野村 恭彦 氏
9/2 (月)	チームミーティング(ワークショップ形式) ・ 課題解決方策の検討 相模原市のリソースの可視化	
9/3 (火)	民間がやる気になる公民連携企画づくり (事業化案、ビジネスモデル案作成)	
10/16 (水)	受講者プレゼンテーション ・ これまで検討してきたプランを受講者相互で発表し、アドバイザーを含めた意見交換	
10/18 (金)	受講者プレゼンテーション ・ で出た意見を取り入れ、ブラッシュアップをかけるためのワーク	

また、各チームがそれぞれの魅力クラスターごとに検討したプランについては、別途、対話を通じたイノベーションの輪を広げるために開催する「(仮称)公民連携イノベーション 相模原ダイアログ」(11月中旬開催予定)において、対話の場を活性化するための題材として発表する予定です。

(仮称)公民連携イノベーション 相模原ダイアログ

日程	プログラム	ファシリテーター
11月中旬	基調講話 魅力クラスターごとのプラン発表を通じた市民・事業者・職員の対話	(株)フューチャーセッションズ 代表取締役社長 野村 恭彦 氏

4 検討したプランについて

相模総合補給廠一部返還地のまちづくりの検討において、施策を進めていく上での参考資料として活用する予定です。

5 その他

受講者は、原則、全日程参加可能な民間企業・団体職員・大学生で、8月2日(金)まで募集します。人数把握のため、報道機関の方が取材される際には、各回前日の17時までに職員研修所に電話にてお申込みください。

問合せ先
職員課 職員研修所
担当 宮地
電話 042-769-8332

公民連携イノベーション 相模原チャレンジ 相模原シティプライド

2017年度から始まった、相模原市職員が自ら地域に「魅力クラスター」を生み出すための、「公民連携イノベーションファシリテーター」。これに加えて2018年度からは、相模原市職員が民間の企業家・NPOと連携して地域課題解決に挑む「イノベーションスクール」が始まりました。2019年度は、これらの経験を活かし、「公民連携イノベーション 相模原チャレンジ」として統合し、「相模総合補給廠」を題材に、目に見える、公民連携イノベーションをめざします。

産業クラスター：特定分野における関連企業、専門性の高い供給業者、サービス提供者、関連業界に属する企業、関連機関(大学や業界団体、自治体など)が地理的に集中し、競争しつつ同時に協力している状態（マイケル・ポーター）

魅力クラスター：産業に限らず、文化、まちづくりなど、地域の魅力を集積させることで、新たなプレイヤーや市民の流入を促すコンセプト（本プログラム独自の考え方）

今回のテーマは、「相模総合補給廠 一部返還地」。この広大な一等地をどう使うか？は、相模原の未来を象徴するものになるでしょう。このプログラムでは、この相模総合補給廠 一部返還地を「相模原シティプライド」と名付け、「どんな相模原の”魅力クラスター”をこの場所に生み出すか？」をテーマに、公民連携イノベーションにチャレンジします。たとえば、「相模原シティプライド」に”スポーツ魅力クラスター”を生み出すとしましょう。その場合は、この場所に相模原市内のサッカー、アメフト、ラグビーなどのチームの練習場や、アスリートと交流する市民スペース、一緒に応援するパブリックビューイング施設などを集め、スポーツの魅力をここに集める、というようなアイデアが生まれるかもしれません。

参加希望メンバーは、6つの「魅力クラスター」のテーマから希望のものを選び、「相模原シティプライド」の考え方（コンセプト）、どんな魅力が生まれるか（ビジョン）、それを実現するための公民連携イノベーションのアイデア（政策とビジネスアイデア）を検討し、提言するだけでなく、政策形成、事業化の共創にチャレンジします。

公民連携イノベーション 相模原チャレンジ 6つの魅カクラスター

「相模原シティプライド（相模総合補給廠 一部返還地）」を使って、次の6つの切り口で、「魅カクラスター」を生み出します。

1. アート・クラスター

女子美大、多摩美大など、相模原にはアートに関わる学生が多い。相模原シティプライドに市民参加の屋外アートやアート教室の集積など、アートに関わる魅カクラスターをつくれないうだろうか？

2. エデュケーション・クラスター

相模原市には、LCA国際小学校やシュタイナー学園などのユニークな教育機関に加え、JAXAや博物館、大学も多数存在する。これを活かして、相模原シティプライドに斬新な教育の魅カクラスターをつくれないうだろうか？

3. スローライフ・クラスター

相模原市には津久井など、スローライフを象徴する場所があり、6次産業も生まれつつある。この資源を活かし、相模原シティプライドに、地産地消などのスローライフに関わる新たな魅カクラスターをつくれないうだろうか？

4. スポーツ・クラスター

SC相模原（サッカー）、相模原ライズ（アメフト）、相模原ダイナボアーズ（ラグビー）、ステラ神奈川相模原（なでしこ）など、多様なホームタウンチームを擁する相模原市。相模原シティプライドに、スポーツ市民参加の聖地となる魅カクラスターをつくれないうだろうか？

5. プレイフル・クラスター

多様な子どもが集い、遊べる居場所をまち中につくる。バラバラの公開空地や緑地をネットワークして考えることで、まち全体を遊び場にしたい。相模原シティプライドに、「遊びに満ちたまち」の象徴となる魅カクラスターをつくれないうだろうか？

6. グリーン&エディブル・クラスター

駅前やまちなかに、木や芝生、植物や野菜・フルーツなど、食べれるものも含めて緑や森を増やそう。駅を降りたらいきなり芝生のような、都市型の究極の緑を感じられるまちにしたい。そのために、相模原シティプライドに、「緑と食物にあふれるまち」の象徴となる魅カクラスターをつくれないうだろうか？